

令和3年度F工房活動報告書

1. 学生ファシリテータ（以下、学ファシ）の養成

1-1. 学ファシの人数

	学ファシ					合計
	4年次	3年次	2年次	継続	新規	
第11期	9名	24名	29名	25名	37名	62名
第12期	15名	24名	23名	27名	35名	62名

※翌年度の年次で記載

第12期学ファシ人数は第11期と同数であったが、前期と比較して2年次・3年次から新たに活動を始める新規活動者の人数が8名から12名に増加したことが特徴として挙げられる。

なお、第12期学ファシ62名のうち4名の学ファシが部活動や資格試験勉強などとの両立が困難となったことを理由に活動の辞退を申し出たため、令和4年3月末日時点で58名の登録となっている（第11期活動期間中の辞退者は16名であり、辞退の申し出は前年度比で減少）。

1-2. 第12期学ファシの応募動機の変化

コロナ禍以前の学ファシの多くは、「自己発見と大学生活（以下、自己大）」を受講したことで、教壇に立つ学ファシや親切に接してくれた学ファシに憧れを抱き、応募に至ることが多かった。しかし、第12期学ファシは「コロナ禍で何もできないことが怖く、自分の力になるようなことがしたかった」等の応募動機が増加した。人との繋がりや、自身の持つエネルギーや意欲を行動に移せる場を求めた結果、コロナ禍でも門戸を開いていた学ファシ活動にたどり着いたと推察できる。

1-3. 第11期後半の活動

■活動一覧

	タイトル	日程・期間	概要	分類
1	「自己発見と大学生活」 授業運営支援	令和3年 4月～7月（全15回）	「自己大」は受講生（初年次生）が「対話」を通して大学生活に対する自分なりの「方針」を持つことを目指すキャリア形成支援教育科目である。 学ファシは、アイスブレイク運営や大学生活に関する話題提供、グループワーク支援、受講生へのフィードバックなどを行った。	実践
2	「自己発見と大学生活」 授業運営支援に伴う面談	令和3年 4月21日（水）～28日（水） 6月4日（金）～14日（月）	「自己大」授業運営支援での各クラス の状況把握を目的に、学ファシ面談を実施。	その他

3	「先輩の体験談」スピーチ対策：駆け込み寺	令和3年 4月21日(水)、23日(金)	「自己大」第3回授業で学ファンが話題提供する「先輩(学ファン)の体験談」スピーチに対して不安があるという学ファンを対象に個別支援を実施。	その他
4	やってみよう！オンラインアイスブレイクの会	令和3年 5月12(水)～14日(金)	オンラインでできるアイスブレイクを体験しながら学ぶ場として実施。	研修
5	オンライン・ファシリテーション研修	令和3年 5月26日(水)、27日(木)	「オンライン状況下でも活用できるチームビルディングやファシリテーションについて学ぶ」をテーマに、学外の講師が研修を担当。	研修
6	第12期新規学ファン募集プロジェクト	令和3年 6月上旬～9月下旬	第12期学ファン募集にむけ、プロジェクトメンバーを募った。メンバーは役割分担しながら、様々な方法で募集活動を行った。	その他
7	ふりかえりの集い	令和3年 8月6日(金)	約1年の学ファン活動を振り返り、学びや気づきを言語化することを目的としオンラインで実施した。	研修

■取り組みの成果と課題

今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響から、春学期授業は第2回以降、実験・実習科目を除いた多くの科目がオンライン形式となり、その後は段階的に対面授業が増加した。これに伴いF工房による学ファン支援もオンライン授業を前提として行った。詳細は下記である。

1) 「自己大」授業運営支援

初回授業は対面で実施されたが、第2回授業よりオンライン(リアルタイム)形式に移行し、最終授業まで同形式で行われた。授業形態の変更を受け、対面授業を歓迎していた学ファンからは残念がる声が聞かれた。しかし、学ファンは研修でオンライン・グループワークを多数経験したことや職員等による支援もあり、試行錯誤しながらも受講生に寄り添ったサポートができていたと思われる。

2) 学ファン面談

「自己大」授業運営支援での受講生の様子や教員との協働、学ファン同士の協働の様子の把握、またトラブルを未然に防ぐことを目的に、授業期間中に各クラス2回の面談を実施した。職員は全クラスの状況をまんべんなく、かつ早々に把握することができ、必要な対応を取ることができた。また、必要に応じて科目の統括・副統括教員に情報共有を行った。

3) やってみよう！オンラインアイスブレイクの会

オンライン授業に対応したファシリテータとしての引き出しを増やすことを目的に、昨年度に引き続きオンラインで実施した。今年度は学ファンがより一層授業で取り入れやすいよう、シーン別や難易度別で実施する等の工夫を凝らした。参考として『オンラインでもアイスブレイク！ベスト50(著：青木将幸)』を使用した。課題として、参加者が少なかったことや顔触れ

が同じだったことが挙げられる。

4) 第12期新規学ファシ募集プロジェクト

第11期活動者7名がプロジェクトメンバーとして募集活動を行った。PR動画制作・募集説明会における学ファシ担当パートの運営・公式SNSアカウントでの情報発信・アイスブレイク体験会・先輩学ファシへのインタビュー動画作成等、方法は多岐にわたった。

■第11期の総括

学ファシは、オンライン状況下でも、工夫次第で対面と変わらないコミュニケーション・グループワークが行えると研修の場で実感し、それを活かして「自己大」授業運営支援を担うことができた。一方で、オンライン状況下であるために、他のクラスを担当している学ファシがどのように活動しているのか分かりづらい状態だった。これにより、学ファシ同士の関係性構築や学び合が起こりづらかったと思われる。第12期では、学ファシ同士の関係性構築を重要視したうえで、引き続き汎用的なファシリテーション能力を身につけることを目指したい。

1-4. 第12期前半の活動

■活動一覧

	タイトル	日程	概要	分類
1	第12期 新規学ファシ募集 説明会	令和3年 7月26日(月)、27日 (火)、30日(金) 9月28日(火)、30日(木)	新規活動希望者を対象に、学ファシ活動の概要や応募方法等について説明。その後、先輩学ファシによる座談会形式の質疑応答(1次募集)/体験談の発表(2次募集)を行った。	説明会
2	継続学ファシ研修	令和3年 10月9日(土)	研修の実施方法や注意点を共有するとともに、継続学ファシとしてステップアップすることを目指し、期待する姿を共有した。	研修
3	新規学ファシ オリエンテーション & 歓迎会	令和3年 10月9日(土)	学ファシ活動の概要や活動する上で必要なルール・注意点等を共有した。その後、先輩学ファシの企画による歓迎会を実施した。	研修
4	ファシリテーション 研修 【必須参加/全5回】	令和3年 10月23日(土)、11月 13日(土)、27日(土)、 12月11日(土) 令和4年 1月15日(土)	第12期学ファシ同士が関係性を構築すること、ファシリテータの基本的なマインド・スタンス・スキルを知る/体感することを目的に実施。一部、継続学ファシが企画・運営を担った。	研修
5	ファシリテーション に関するレクチャー & ワーク	令和3年 10月27日(水)~12月 8日(水)	外部のファシリテータがレクチャー&ワークを不定期(週1回程度)で学ファシ向けに開催した。	その他
6	京都文教大学プロジ ェクト科目とのコラ ボレーション企画	令和3年 12月11日(土)	京都文教大学プロジェクト科目受講生が学ファシに向けてワークショップを企画・実施。ワークショップ終了後には参加者全員でふりかえりを実施した。	その他

7	「自己大」事前研修	令和4年 2月3日（木）、3月28日（月）、29日（火）	<p>「自己大」の教育目標および学ファシの役割理解を目的に、統括・副統括教員と協働しながら研修を実施した。</p> <p>【研修内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員との協働について意見交換 ・クラス内の多様性への理解 ・学ファシが授業内で運営するプログラムの準備・練習 	研修
---	-----------	---------------------------------	---	----

■取り組みの成果と課題

第12期前半は「新規学ファシ募集説明会」以外は対面で実施した。コロナウイルス感染拡大防止の観点から、活動の対面実現に向けて慎重に準備を行った。研修では、密を避けるため2つの会場に分けて会場間をオンラインで中継し、グループワーク時は一定の距離が取れるように座席を配置した。また外部委託によるファシリテーション研修のサポートの導入や、それに伴うファシリテーション研修の大幅な変更等、前年度までの取り組みから大きく変化した。これらについて下記に詳細に記す。

1) ファシリテーション研修

第12期では、研修の大きなテーマとして「より体験的に学ぶ」「学ファシ同士の関係性構築」のふたつを掲げ、第11期から様々な変更を加えた。変更点として、下記の4点が挙げられる。

1点目は、長期間（4か月間）にわたり、土曜日に3時間を確保して、全5回の研修を実施できた点である。一回の研修につき3時間というまとまった時間を確保できたことで、『学ぶ』→『体験する』→『ふりかえる』学習サイクルを確実に回すことができ、深い学びに到達できた。また、次回研修までに期間が空いたことで、本日の学びを持ち帰り、日常で考える・実践する時間を十分に確保することができた。

加えて、学ファシ同士の安定した関係構築にもつながった。コロナ禍前は、応募から合宿、合宿から「自己大事前研修」までの期間が空いていたことから、関係性を維持することが難しいと学ファシから声が挙がっていた。今期はこの点について解消できたと言える。

最後に、土曜日開催によって平日だと授業と被って参加できない学生や、「土曜日でも参加したい」と考えるモチベーションの高い学生の獲得につながったと思われる。

2点目は、運営スタッフ（ファシリテータ）の数を大幅に増やした点である。昨年度まで1～2名の職員で運営していたところを、今年度はF工房職員に加え、外部のファシリテータ5名、4年次の学ファシ4名など、計10人以上のスタッフが運営に関わった。これにより、細やかで寄り添ったサポートが行き届き、学ファシ個人や各グループの学びや気づきに繋がったと思われる。

また、研修2回目では、パネルディスカッション形式で、5人のファシリテータが「自身のファシリテーション像」を語る時間を設けた。この時間は、学ファシ個々人が目指すファシリテータ像を考えるうえで非常に参考になっただろう。

3点目は、研修終了後に毎回実施する「運営メンバーによるふりかえりの場」を参加者（学ファシ）にも公開した点である。参加者（学ファシ）は少しずつプログラムデザインの視点を持つことができるようになった。同時に、運営メンバーはプログラムデザインに参加者（学フ

アシ)の視点をより反映できるようになり、次回研修の内容を練るうえで参考になった。

4点目は、ワークのなかで「自身のアウトカム(目標・ゴール)を明確化する」「職員からのレクチャーは最小限にする」「ワーク体験後に『意図開き』の時間を設ける」等、細かな工夫を取り入れた点である。これらの工夫により、学ファシは受動的に教わるだけでなく、自ら考えながらワークに参加することが自然とできていた。

2) 外部委託によるファシリテーション研修のサポート効果

職員の業務負担軽減や学ファシ増員を目的に、外部委託によるファシリテーション研修のサポートを導入した。依頼内容とその成果について、下記の3点が挙げられる。

1点目は、F工房職員に対するコンサルティングである。F工房の今後の方針や今期の研修プログラムの構想等をまとめた行動計画の可視化、計画の実行過程においての第三者の視点からの提案・助言等、様々なサポートにより、気づき・学びを得ることができた。

2点目は、「ファシリテーションに関するレクチャー&ワーク」の開催である。学ファシが多様なファシリテータに接し、汎用的なファシリテーションを学ぶことを目的に実施した。内容は「グラフィック・ファシリテーション入門および実践」「プロジェクトにおけるフレームワークのレクチャー」「『ファシリテーションを仕事として考える』対話型ワーク」等であった。学ファシは、各自の興味・関心にあわせて参加していた。

3点目は、学ファシの研修における企画・運営のサポートである。外部ファシリテータが研修に参画することにより、学ファシは職業としてのファシリテータの姿を目のあたりにし、社会におけるファシリテーションの可能性を感じることができただろう。

3) 京都文教大学プロジェクト科目とのコラボレーション企画

京都文教大学「プロジェクト科目IB【対話を促すワークショップの運営クラス】」の担当教員(本学卒業生、元学ファシ)からF工房にご連絡いただいたことから今回のコラボレーション企画を開催することとなった。詳細はキャンパスフラッシュ参照。

(https://www.kyoto-su.ac.jp/wr-news/20211227_875_gakufashi.html)

■第12期前半の総括

外部委託によるファシリテーション研修のサポートの導入や、それに伴うファシリテーション研修での新たな試みにより、学ファシ同士の関係性構築・意欲の向上・高いモチベーションの維持が確認できている。加えて、活動辞退者の減少にもつながったと思われる。今後は、職員と学生が協働しながら学ファシ活動の方針そのものを考えたり、研修の運営を学ファシに任せたり等、様々な可能性が期待できると感じている。

また、これまで、ファシリテーションは「自己大」に限った活動だと認識している学ファシが多い印象だったが、自身の学生生活(ゼミや課外活動等)のなかでもファシリテーション能力は発揮できるのだと実感し、日常的に実践してほしい。

2. FDに関する取組み

2-1. 授業の見学

公開授業&ワークショップ 0件

授業形態の変化等の影響もあり、公開授業をする学部が少なかったため、授業見学を実施しなかった。

2-2. 教育支援研究開発センター主催事業

学生×教員×職員しゃべり場「京産大をフル活用するためには!？」

□日時：2021年12月17日（金）17:00～18:30

□成果・課題

学ファシの有志メンバー4名が企画・運営に関わった。企画段階ではアイスブレイク内容の検討、グラウンドルールの設定、当日はワークの全体進行（メインファシリテータ）と各グループのサポート（テーブルファシリテータ）を担当した。また、グラフィック・レコーディングの手法を用いて議論をリアルタイムに可視化することにも挑戦した。職員は企画終了後、学ファシに対してファシリテータとしての視点からフィードバックを行った。今回参画した学ファシにとって、このような「自己大」以外のファシリテータとしての実践の場は貴重な機会になっただろう。

3. コンサルティング

■依頼件数：4件（のべ7回）

≪プログラム種類別の内訳≫

プログラム種類	件数
学内他部署との協働	2
授業の支援	2
課外活動の支援	0

※詳細は別紙「プログラム種類別の詳細」参照

※件数は依頼者の担当プログラムおよび担当科目ベース

≪支援内容別の内訳≫

支援内容	回数
ワークショップ・授業の運営支援 （コンテンツ運営）	5
見学・フィードバック	0
ワークショップ・授業の設計支援 （助言・情報提供）	2

※依頼1件に対し複数の支援を同時に実施する場合がある
ためのべ回数を記載（事前打合せ・ふりかえりは除く）

※「自己大」は授業期間中、学ファシの派遣を
通じて全クラスの運営支援に関わるため回数を出しづらい
ことから1回でカウント

■今年度の特徴的な取り組みと今後の課題

1) 経営学部「演習2」

宮永ゼミでは2018年度からF工房と協働し「ディスカッションの場で自分の意見を述べる力、相手の考えを理解する力、そして合意形成を図る力」を磨く場を提供する機会を授業内で設けている。今年度は、職員とともに学ファシ3名も授業支援に関わり、「伝える」「伝わる」コミュニケーションをテーマに、インプロビゼーション（即興演劇）の手法を用いたワークショップを行った。ワーク中のゼミ生の様子や意見交換の際に用いた付箋紙からは、楽しみながらコミュニケーションを図ることができた様子がうかがえた。一方で、深い自己内省や対話が生まれるには至らず、次年度の課題としたい。

■コンサルティング業務の総括

依頼件数は4件（のべ7回）であった。コロナ禍以前に定例であった依頼が戻りつつあり、相談対応や打ち合わせ等も含め、対面での実施が増加した。

4. 学外での発表・講演

4-1. 学外への講師派遣：実施なし

4-2. 学外での発表

大学コンソーシアム京都第27回FDフォーラム ポスターセッション発表（オンライン開催）

□日時：2022年2月19日（土）14:00～17:00

□成果・課題

今年度もオンラインで開催され、学ファシの有志メンバー6名が「意欲とつながりから成る学生ファシリテータとその可能性～コロナ禍における意識の変化～」というタイトルでポスター発表を行った。職員は学ファシとのミーティングに参加するなど、発表までのサポートを行った。

学びあいキャンパスでの話題提供（オンライン開催）

□日時：2022年2月25日（金）9:00～14:30

□成果・課題

株式会社ラーニングバリューが主催するオンラインイベントに、学ファシの有志メンバー4名が参加した。コロナ禍により学生生活が限定的になる中で、参加学生が大学の垣根を越えて学びあい、今後の活動のヒントを得たり、モチベーションを高めたりするきっかけづくりを目的として開催された（開催概要より抜粋）。学ファシは「コロナ禍におけるコミュニケーションと連携のとりづらさについて」というタイトルで話題提供を行った。

以上

【別紙】令和3年度 F工房によるコンサルティング実績：プログラム種類別の詳細

1) 学内他部署との協働 (2件) [前年度実績：0件]

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
1	5/29	フレッシュャーズ・コミュニケーション	同窓会		1		オンラインでグループワーク・アイスブレイクを実施する際の注意点および具体的な実施案の提案
2	3/16	ピア・サポーター研修	教学センター	1	1		聴く・話すスキルを身に着けるための研修実施、学生が実施するチームビルディング研修サポート

2) 授業の支援 (2件) [前年度実績：3件]

共通教育科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学&FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
1	4/13~7/30	自己発見と大学生活	初年次教育センター	15回×30クラス		○	全30クラス、15コマへの学ファン派遣、学ファン向け研修プログラムの設計支援・運営、春学期授業期間(4月~7月)における学ファンの活動支援

学部専門科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学&FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
2	12/3,12/10,12/17	演習2	経営学部	3		○	受講生に対し、「伝える」「伝わる」コミュニケーションをテーマに、インプロビゼーション(即興演劇)で用いられる簡単なワークを実施

3) 課外活動の支援 (0件) [前年度実績：0件]